

令和 2 年 10 月 1 日		
資料提供		
担当課室	農業環境・鳥獣害 対策室	農作物病虫害防 除所
担当者	大谷	岡本
電 話	073-441-2905	0736-64-2300

病虫害発生予報 第7号（10月予報）について

令和2年度病虫害発生予報 第7号（10月予報）を別添のとおり発表します。

病害虫発生予報 第7号(10月予報)

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
トマト・ミニトマト	黄化葉巻病	並	野菜・花き全般	ハスモンヨトウ オオタバコガ	やや多 やや少
エンドウ	褐斑病、褐紋病 うどんこ病 つる枯細菌病	並 並 並		カンキツ	ミカンハダニ
アブラナ科野菜	コナガ	並	カキ	炭疽病 うどんこ病 円星落葉病 角斑落葉病 フジコナカイガラムシ	やや多 並 並 やや多 並
野菜・花き全般	アブラムシ類 ハダニ類 ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ シロイチモジヨトウ	並 やや少 並 並 やや少		果樹全般	カメムシ類

気象予報

1か月予報（予報期間 9月26日～10月25日 大阪管区气象台）

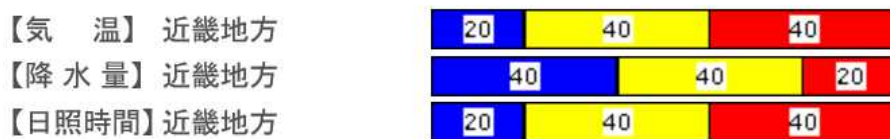
< 予想される向こう1か月の天候 >

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、高い確率50%です。

< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%） >



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

	月平均気温 (平年値) (℃)	月降水量 (平年値) (mm)
10月	和歌山 18.8	和歌山 121.5
	潮岬 20.2	潮岬 243.8

I . 野菜・花き

<トマト、ミニトマト>

1. 黄化葉巻病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

① 県中部の施設栽培ミニトマトにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率9%、発病株率0.4%）であった。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 定期的な薬剤散布により本ほ初期のタバココナジラミ防除を徹底する。
- ② 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。
- ③ 台風通過後は、施設の外張りフィルムおよび防虫ネットの保守点検を必ず行う。

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。
- ② 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 開花期ごろから発生する。発生初期より防除を行う。
- ② 乾燥条件が続くと発生が多くなる。

3. つる枯細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病が日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。
- ② 防風ネットの発病抑制効果は高い。
- ③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

<アブラナ科野菜>

1. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年0頭）、和歌山市20頭（過去9年の平均14.2頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
 - ② 収穫後の作物残さが発生源になり、周辺のほ場に成虫が分散して発生が多くなるので、収穫後は速やかに残さをすき込む。

<野菜・花き全般>

1. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率11%、生息葉率0.9%）、ワタアブラムシの発生ほ場率は67%（平年24%）、生息葉率は5.3%（平年5.2%）であった。
 - ② 黄色水盤（紀の川市）への9月1～20日の飛来数は32頭（平年91.4頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① シルバーマルチは有翅虫の飛来防止効果がある。
 - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。ネオニコチノイド系薬剤に対する感受性が低下したワタアブラムシが認められているので注意する。

2. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率16%、生息葉率3.8%）、ナミハダニの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率10%、生息葉率1.3%）であった。
 - ② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬のハダニ類の発生ほ場率は18%（平年33%）、生息株率は3.6%（平年13.3%）であった。
 - ③ 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
 - ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は67%（平年52%）、生息葉率は8.7%（平年15.8%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また、施設の開口部に防虫ネットを展張し、成虫の飛び込みを防ぐ。
 - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
 - ③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

4. ミカンキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率1%、生息葉率0.1%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。
 - ② イチゴではミツバチの導入前に徹底防除を行う。

5. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は9%（平年27%）、生息株率は0.9%（平年6.4%）であった。
 - ② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市45頭（平年43.9頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
 - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

6. ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は33%（平年15%）、生息葉率は1.3%（平年1.1%）であった。
 - ② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率25%、生息株率3.6%）であった。
 - ③ フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市1,661頭（平年287頭）、和歌山市3,533頭（過去9年の平均1,027頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① シロイチモジヨトウに準ずる。

7. オオタバコガ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率14%、生息株率2.3%）であった。
 - ② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市35頭（平年17.8頭）、御坊市0頭（平年2.9頭）、印南町0頭（平年3.5頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期の防除を心がける。

II. 果 樹

<カンキツ>

1. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 有田川町における9月中旬の100葉あたり雌成虫数は、予察ほ場（無防除）では0頭（平年0.3頭）、慣行防除園では0頭（平年0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ほ場内を観察し、発生の増加がみられる場合は薬剤散布を行う。特に、9月に防除していないほ場では発生に注意する。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

<カ キ>

1. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は35%（平成20%）、発病果率は1.2%（平成0.9%）であった。
- ② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病果は伝染源になるため、ほ場内を巡回し、発病果を速やかに採取して土中に埋める。
- ② 発病果がみられるほ場や降雨が続く場合は薬剤防除を行う。また、台風が接近する場合は事前に薬剤を散布し、できなかった場合は台風通過後速やかに散布する。
- ③ 薬剤防除は、耐性菌対策として同一系統の薬剤は連用しないように注意する。
- ④ 軟弱徒長した枝が増えないように施肥による窒素過多や強剪定を控える。冬季の剪定時に病斑を形成した枝を除去する。
- ⑤ 排水不良ほ場、密植で通風の悪いほ場は発病しやすいため、ほ場内の環境改善に努める。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は47%（平成71%）、発病葉率は11.1%（平成12.8%）であった。
- ② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。
- ② 秋季になり気温が低下すると再び病勢が増すので、二次伝染防止に努める。

3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は6%（平成6%）、発病葉率は0.1%（平成0.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 本病は樹勢の低下により発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は53%（平成35%）、発病葉率は2.4%（平成4.2%）であった。

- ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 本病は樹勢の低下により発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

5. フジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は65%（平成75%）、寄生果率は8.7%（平成10.6%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 本虫は主に果実とへたの間隙部に寄生しているので、薬液がこの部分にかかるように丁寧に散布する。

< 果樹全般 >

1. カメモムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における9月中旬のカキの被害果率は、「富有」で11.5%（平成6.4%）、「刀根早生」・「平核無」で1.5%（平成0.9%）であった。
 - ② 紀の川市粉河の予察灯による9月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメモムシ215頭（平成479頭）、ツヤアオカメモムシ162頭（平成266頭）であった。
 - ③ 有田川町奥の予察灯による9月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメモムシ157頭（過去6年平均519頭）、ツヤアオカメモムシ188頭（同282頭）であった。
 - ④ みなべ町東本庄の予察灯による9月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメモムシ719頭（平成4,683頭）、ツヤアオカメモムシ895頭（平成2,613頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 果樹カメモムシ類の飛来量はほ場間差が大きく、特に山林隣接ほ場では早くから被害が出やすい。
 - ② カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生品種で被害が大きいため発生に注意する。
 - ③ ほ場内での果樹カメモムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
 - ④ 台風通過後や強風後には一時的に飛来が多くなることがあるので、ほ場内での発生に注意する。
 - ⑤ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメモムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稻、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780